

野津原地域まちづくりビジョン概要

野津原地域の将来像（コンセプト）

ダムに夢を 森といやしの里 のつはる

将来像への思い

高齢化に伴い、高齢者福祉の充実が必要という意見や学校統廃合後の教育環境の問題、基幹産業の農林業の振興、国道442号拡幅問題などの地域課題が山積しています。「大分川ダム」や「道の駅」の完成を機に、自然豊かな野津原をPRし、明るいまちづくりをイメージしてこのコンセプトとしています。

これからのまちづくりに向けた市長への提言

提言1：大分川ダムを核とした地域振興

豊かな自然環境に囲まれた大分川ダムは、野津原地域最大のインフラとしてその魅力を最大限に活用していく必要があります。今後、道の駅登録を目指す「交流拠点」や、野外音楽ステージを設置した多目的広場などとのハード間での連携を軸に、マラソンなどの各種スポーツイベントなど、地域に人を呼ぶ仕掛けづくりについての支援を望みます。

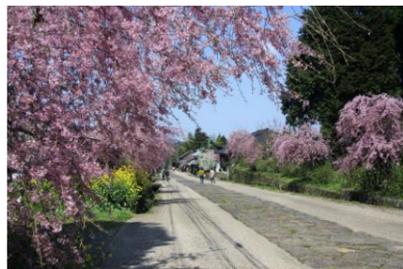


提言2：地域コミュニティの維持・活性化

学校の統廃合をはじめ、脆弱な通信網や公共交通の不便などにより、コミュニティの希薄化が進行するとともに、若者の移住・定住の意欲低下が危惧されます。急速に進む高齢化に歯止めをかけるため、希薄化するコミュニティの維持・活性化を図るための場の創出や、若者を地域に呼び込む取組を望みます。

提言3：豊かな自然・文化財を活かした観光の振興

大分川ダムのほか、野津原にある、美しい自然や景観、地域の伝統文化、豊かな食材等、地域の観光資源を活かしたイベントや名産物の開発等を支援することなどにより、魅力あふれる観光地域づくりの推進を望みます。



提言に基づく提案事業一覧（取組内容）

提言1

事業番号1：国道442号の朝地までの拡幅

- ダムや交流施設の建設に伴い、国道442号を拡幅し交流人口の増加を図る。
- 地域においても期成会活動を県に対し引き続き実施する。

事業番号2：スポーツを通じたまちづくり事業

- 災害時の避難所としても利用できる総合体育館を新設する。
- スポーツを通じて人を呼び込み、地域を活性化する。

事業番号3：ダムの魅力を活かした地域づくり

- ダムの魅力を活かしたイベント等を周辺で実施し、人を呼び込むまちづくりを推進する。
- 親子で楽しめるイベント（いも掘りなどの収穫体験事業）
- 健康意識を高めるイベント（ウォーキング、マラソン、健康教室、ラジオ体操など）。
- 年間を通して野津原に来てもらえる企画づくり（集客を増やすには健康食品や季節の食材など「食」を絡める必要）。
- 周回道路におけるさまざまな種類の桜の植樹（地域外の人に桜のオーナーになってもらう）、交流拠点での食事や季節の食材の販売などといった観光面での強化を図り、1日中観光客が楽しめる体制をつくる。

提言2

事業番号4：小学校跡地の利活用（中部・西部・今市）

- 小学校跡地を地域の交流の場として利活用する。
- 小中学生と地域のふれあい活動を実施（校舎は校区公民館として利用）。
- 野津原の多世代交流の促進（子どもから高齢者まで参加できる料理コンテストを実施し、野津原の季節の食材を使った料理やお菓子、我が家自慢のお漬物などを競い合う。優勝作品は交流拠点で販売し、SNSなどで地域外へもPR）。
- 宿泊できる施設として整備を行い、ダム周辺施設と連携し、地域の活性化を図る。

事業番号5：助け合いを実現するやさしい地域づくり

- 様々な分野のボランティア人材バンク制度の創設。
- 野津原の優れた人、物を繋げるコーディネーターの発掘・育成。
- 一人暮らし高齢者などに対する支援（交通・ブロードバンドなど）の充実。
- まちづくりを推進する多様な組織、団体の構築・支援。

提言3

事業番号6：観光農園の開発促進事業

- ぶどう、いちごなどの観光農園や、産品の開発（地域資源を利用）。
- 野津原の一村一品を観光に活かす（にら、いちご、豊の七瀬柿、しいたけ、豊後牛など）。

事業番号7：野津原の桜の名所×ウォーキング×（桜の）特産品

- 桜を活かした野津原の特産品の開発や、バスやウォーキング、マラソンなどで、野津原を巡るイベントを実施する。

事業番号8：ふるさとの旧跡・民話めぐりガイド事業

- 小学生にボランティアガイドとして野津原の旧跡をガイドしてもらう（教育機関との連携）。
- 伝統文化を継承し、地域への愛情と誇りを育むのと同時に、SNSなどで地域資源の情報発信をする。